

ペタンク競技のご案内 petanque



① 施設・用具

①施 設

ある程度硬い地面で砂利の混ざった敷地が理想的である。

ゲームに必要なスペースは長さ15m×幅4m。

②用 具

●ボール

金属製(鉄・ステンレス)で中空。

直径 70.5mm~80mm

重量 650g~800g

●ビュット

直径約3cmの目標球。



② 概 要

ペタンクは、1910年に南フランスの港町ラ・シオタで生まれたボールスポーツです。プロヴァンサルという助走をつけて投球するゲームが、全員が同じ場所から投球するようになり、ピエタンケ(両足をそろえる)からペタンクになったと言われています。日本では1970年頃に紹介され、徐々に競技人口が増え、近年では全国各地で大会が開催されています。

競技はビュット(目標球)にボールを近づけることで得点を競うもので、一見単純に見えますが、高度なテクニックと戦略を要する奥の深い競技です。ゲームではたった1球で形勢を有利にしたり、大量得点を取ったりするところに面白さがあります。

③ ルールの特徴

①基本動作

ペタンクの投球はアンダースローで行い、バックスピンをかけるために手の平を下にしてボールを離します。投球にはポワンテ(目標に寄せる)とティール(目標を弾き飛ばす)があります。

ポワンテには、低く転がして寄せる「ルーレット」、中間点に着地させて寄せる「ドゥミポルテ」、ボールを高く上げて目標の近くに着地させる「ポルテ」があります。また、ティールは1球で複数の得点を取ることができるため、勝つためには欠かせない投球方法です。

②競技方法

対戦方式	一人のボール数	チームのボール数
シングルス	3球	—
ダブルス	3球	6球
トリプルス	2球	6球

- a ジャンケンで先攻後攻を決め、先攻チームが地面に直径35~50cmの円(投球サークル)を描き、サークルの中から6~10m以内にビュットを投げる。
- b 続いて先攻チームの選手はビュットの近くで止まるように第1球目を投げる。
- c 次に後攻チームの選手も第1球目を投げる。
- d 1球づつ投げ終わったら時点でビュットに近い方が勝っているので、ここからは負けている遠い方のチームが投球する。
- e 負けているチームは、味方のボールが一番近くになるまで投球をし続けなければなりません。
- ※こうして勝っているチーム(ビュットに一番近いボールのチーム)は休み、負けているチームが投球を行う。
- f 一方のチームの持ちボールがなくなったら、もう一方のチームも持ちボールを全て投げる。
- g 両チームのボール全てを投げ終わったときが1メヌ(1セット)の終了。得点は負けているチームの一番近いボールよりも、勝っているチームのボールが何個近いか、その数が得点となる。ボール1個が1点。
- h 勝ったチームは、メヌ終了時のビュットを中心にサークルを描き、そこからビュットを投げて次のメヌを始める。メヌを繰り返し、お互いの取得点を加算していく、先に13点先取したチームが勝ちとなる。

③得点の取り方

得点を取るためにには、ビュットに寄せるだけでなく、ボールの配置状況や残りボールの数により、様々な戦術が考えられます。

- a ビュット手前にある味方ボールを押して近づける。
- b 相手チームのボールをティールする。
- c ビュットを移動させる。

★お問い合わせ

★会費他

○各市区町村、都道府県組織

(入会金 円／年会費 円)

○公益社団法人日本ペタンク・ブル連盟：東京都新宿区

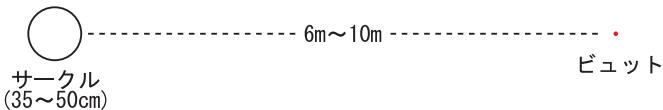
(入会金:2021年度 1,000円⇒0円、年会費 2,000⇒1,000円)

〈参加挑戦できる大会〉全国公認大会、日本ペタンク選手権大会他

〈挑戦できる資格〉上・中・初級指導員／A・B・C級審判員

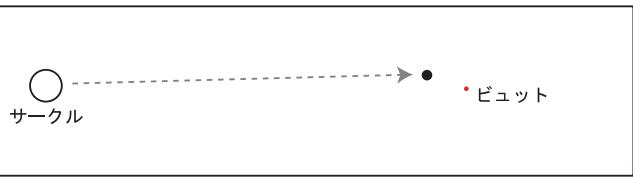
ペタシングゲーム図解

1 ジャンケンやトスで先攻チームを決め、その中の選手が地面に直径35~50cmのサークルを描く。次に先攻チームの選手が方向を決めてサークルの中からビュットを投げる。距離は6m以上10m以下であり、この範囲内にビュットが止まったときが競技の開始である。



2 続いて、先攻チームの選手はビュットの近くに止まるように第1球目を投げる。

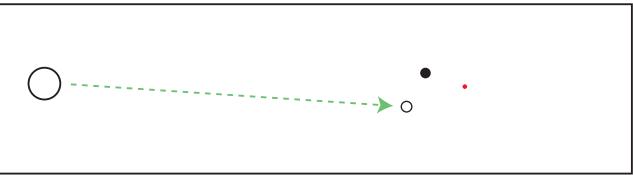
Aチーム ボール数	Bチーム ボール数
● ● ● ●	○ ○ ○ ○ ○



※一人の投球数は決まっているが、チーム内での投球順番は決まっていない。

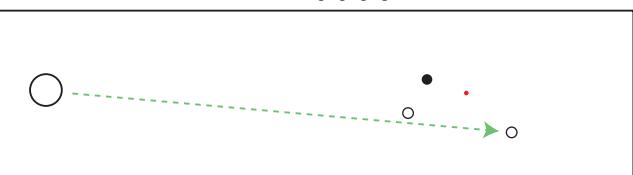
3 次に後攻チーム（Bチーム）の選手も第1球目を投げる。

Aチーム ボール数	Bチーム ボール数
● ● ● ●	○ ○ ○ ○ ○



4 ビュットから見て近いボールのチームが勝っているのでここからは負けている遠い方のチームが次の投球をする。そのチームは味方のボールが一番近くなるまで投球をし続けなければならない。この場合、Bチームのボールが負けているので、Aチームのボールより近づくまで投球を行う。

Aチーム ボール数	Bチーム ボール数
● ● ● ●	○ ○ ○ ○



※このように、以降の投球は、ビュットから遠い方のチームが投球を行う。

5 片方のチームの持ちボールがなくなったら、もう一方のチームも持ちボールを全て投げる。この場合、Bチームは全て投げ終わったが、Aチームが残り2球持っているので、Bチームのビュットに一番近い球（b1）よりも近づくように投げる。

Aチーム
ボール数
● ●

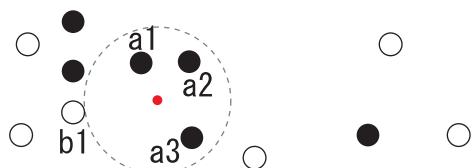
Bチーム
ボール数



6 両チーム全て投げ終わったときが1メース（1セット）の終了となる。得点の計算は次のとおりである。

得点を得るチーム：ビュットに一番近い球のチーム（Aチーム）

得点の数え方：負けているチーム（Bチーム）のビュットに一番近い球（b1）よりもAチームの近いボールの数が得点となる。



この場合、負けているBチームの一番近い球（b1）より、Aチームの球が3個（a1、a2、a3）近いので3点となる。

Aチーム：3点

Bチーム：0点

7 勝ったチームはメースの終了時のビュットの位置を中心にサークルを描き、そこからビュットを投げて次のメースを始める。このようにメースを繰り返し、お互いの得点を加算していく、13点先取したチームが勝ちとなる。

※どちらのチームのボールが近いか目測で判断できない場合は、メジャーを用いて計測を行う。

★目標への寄せ方

